

第六号に寄せて

吉見 孝夫

前号から半年を経て第六号をお届けすることができました。年二回発行が慣行となるよう努めます。今号の二本は、ともにイソップ寓話を引用した文献の整理です。今村氏のものは戦後の中学校国語教科書すべてに目を通したうえでの論考です。その労を多としていただきたいと存じます。

す。同協会からは調査の許可をいただいておりますが、当面私自身で調べる予定はありません。どなたかにお調べいただきたいと望んでおります。

五一画（二八、二九ページ）はヘロドトス『歴史』巻二・一二一の「ランプシリニトス王の宝蔵」を引いているのだろうとお教えいただきました。中務氏の、岩波「書物誕生—あたらしい古典入門」シリーズの『ヘロドトス『歴史』—世界の均衡を描く』（岩波書店、二〇一〇年八月）の七〇～七四ページに、インドから我が『今昔物語集』までを視野に入れた、この話の解説があります。

九州帝国大学教授長沼賢海が「伊曾保物語絵巻」『史淵』第二号、一九三〇年一二月。『日本文化史の研究』（教育研究会、一九三七年七月）に再録）という論文で紹介した絵巻物の「伊曾保物語」があります。当福岡県新宮町在住の堺豊三郎という方が所有していました。現在の所在を何とか知りたいと願つておりましたところ、偶然に宗教法人新健康協会に付属する晴明会館（福岡市）の所蔵となつていることを知りました。本資料の本文は仮名草子『伊曾保物語』を引用するものですので、本文研究のうえで高い価値を有するとは思えません。一方、その絵は、万治整版本の挿絵とは異なり、舞台を唐風にして細密に彩色が施されています。美術史的な意義を云々する資格はありませんが、長沼論文やインターーネット上の写真を見た限りでは十分に鑑賞に堪える絵画で

す。

檜枝氏かゝは Dr.Maurits Sabbe, *Dierkennis en Diersage bij Vondel*, Antwerpen 1917 (ファンデルにおける動物理解と動物伝説) という文献を紹介していただきました。

これを研究に活かす能力のないのを遺憾とします。

細心の注意を以て読んでくださる方々の存在が、有り難くもまた怖くもあります。一一六画がイソップ寓話のどれに当たるか不明としたといふ (一九ページ)、遠藤潤一氏、花間隆氏から疑問が呈されました。Charles Stickney 本の *The Ass Eating Thistles* に当たるとの指摘です。遠藤氏かゝは古く一八一八年の Thomas Bewick 本にもあると教えていただきました。花間氏からは、一八一詩 (一一一、一二三ページ)、五一画 (一八、一九ページ)、六一詩 (三〇、三一ページ)、六一画 (三一、三三ページ) についても示唆をいただきました。

過分な励ましの言葉をお送りくださいの方々にも感謝申しあげます。